

国際政治の動きに確信、核兵器のない世界にむけ、草の根の力を実感 学習会に70人参加

12月18日、小郡ふれあいセンターで「核兵器のない世界と日本の役割、原水爆禁止運動の歴史」と題した学習会を開催し、県下から70人が参加しました。

日本の草の根の運動が国際政治を動かしている



福江筆頭代表は「民主党政権はブレーキが効かない、危険な政権。菅首相は沖縄を説得するのではなく、アメリカに行って説得すべき。草の根の運動が大事な時だ」とあいさつしました。つづいて日本原水協全国担当常任理事の田中章史さんが90分にわたり講演しました。

田中さんはNPT・NY行動でのエピソードや国連総会の各国の動きを紹介しながら「日本の草の根の運動が国際政治を動かしている。核兵器のない世界に向けた枠組み

はできた。核兵器保有国の決断次第というところまできた」とのべ、さらに被爆国日本の役割と民主党政権「日米同盟の深化」と平和的生存権を保障する自治体の役割を壊す「地域主権改革」の問題点を明らかにしました。そして最後に「原水協運動の原点は署名運動。署名の持つ力を確信し、草の根の運動を広げよう」とよびかけました。

国連と各国政府に向けてコンセンサスをつくる「新たな署名」

ニューヨーク行動に参加した4人が発言したあと、周南原水協の山本さんが、「徳山港には周防灘での演習の際に、パトリオット、掃海艇などが入ってくる。テロ対策を理由に抗議

行動などが港に入れなくなった。米艦船の民間港への入港問題での運動の提起を受けて、市への申し入れなどをとりくみたい。全国で各団体と共にこのとりくみをするのは大事なことだと思う」と発言。

宇部原水協の深谷さんは、「あたらしい署名の提起があったが、共同や賛同を広げるためには準備が必要だ。2月15日がスタートというのは無理があると思う。どのように考えたらいいいのか」と質問。

田中氏は「2012年にはアメリカや韓国の大統領選挙、NPT再検討会議の準備委員会も始まる。そこでの議論を前に進めるためには2011年秋の国連総会が重要になり、夏の世界大会が大変重要だ。2011年はそういう節目の年。そして年内には署名の案文を都道府県原水協には送ることになるので、年明け早々から、この間培ってきた様々な人たちをリストアップして、賛同・協力を求めるなどを是非進めて欲しい。「核兵器のない世界」署名に応じてくれた、山口市長や周南市長にも会って新たな署名への賛同や協力を求め、宮崎県の都城市のような自治体ぐるみの署名運動の相談してほしい」と要請しました。

最後に周南市原水協の山本さん（平和委員会の役員でもある）が、「岩国と沖縄はブレない。連帯してたたかいを進めよう。その基には核兵器禁止の運動があることを確信にしよう」と閉会あいさつしました。



署名宣伝行動も20人参加

午後4時から参加者に呼びかけてスーパー「アルク小郡店」の前で署名、宣伝行動を行い、20人が参加し、1時間で116筆の署名が集まりました。

福江筆頭代表理事は「この時期に学習会を成功させよかった。賃上げや福祉の問題など社会をよくする運動の中でも、とりわけ核兵器廃絶の運動は誰もが共感でき署名をするだけで貢献できる、一番身近で気軽に取り組める運動。みんなで学習しながら協力して運動を大きくしたい」と語っています。